

第3分科会 研究課題「教育環境整備に関する課題」

研究主題「児童・生徒が安心して学ぶ魅力ある学校づくりのための教頭の関わり」

～地域・保護者と連携した教育環境整備の在り方～

提言者 都城支会 都城市立沖水中学校 牧之瀬 朗

1 主題設定の理由

現在、地域に開かれた学校が理想とされている。本地区も、地域の方々や保護者と連携して生徒が安心して学校生活を送れるように様々な取組を行っている。学校と地域・保護者をつなぎ、より円滑に活動できるように結ぶのが教頭の仕事だと考える。

2 研究のねらい

教頭が、自校や中学校区の教育環境整備の課題や現状を把握し、課題解決や環境整備を進めることで、より組織的に生徒が安心して生活できる環境をつくることのできるのではないかと考える。

3 研究の概要と成果

(1)【志和池中学校の取組】

ア 地域との連携

(ア) 実践と成果

総合の時間を活用し、全学年で地域学習を行った。1年生は「志和池を知る」2年生では「志和池で体験する」3年生は「志和池に貢献する」。1,2年生で、ゲストティチャーを招き、自分の知らなかった故郷のことを学んだり、実際に職業体験を行うなどの経験を積んだうえで3年生が地域に提言したりするという取り組みを行っている。この活動を通じて、地域の方々とのつながりを深め、朝の登校指導を行ってもらっている「地域見守り隊」の方々とも知り合うことができ、笑顔であいさつを交わすことが出来ている。

(イ) 課題

見守り隊の方々から「学校の職員と一緒に下校指導を行いたい」との声があがっている。見守り隊の方々を下校指導を行ってもらっているのは水曜日なので、丁度その頃学校は職員会や職員研修の時間になっている。見守り

隊の方々が、直接一緒に下校指導を行い、情報交換をしたいという思いは、非常にありがたい。次年度の教育課程の見直しで検討するか、見守り隊の方々と日にちを合わせて下校指導を行うなどの取組が必要になると考える。

イ 保護者との連携

(ア) 実践と成果

昨年度の学校評価で、保護者から「子どもが学校でもらったプリントを言わないと見せない」という意見が多くあり、生徒も「保護者に言われないと見せない」と回答している生徒が多かった。そこで、本年度から、参観日や体育大会などの学校行事は、プリントでも配付するが、同時にシグフィーでも保護者に連絡するようにした。これにより学校からきちんと連絡がいつているという可視化にもなっている。また、昨年度からが学級通信もシグフィーで送信しており今まで白黒で見にくかった写真もカラーで見られるようになり、今まで通信を見せなかった生徒の保護者からは「毎週楽しみにしています」という、うれしい言葉をもらった。また、シグフィーで送信することで、学級担任も毎週通信を出すようになり、職員の意識向上にもつながっている。

(イ) 課題

確実に保護者との連絡はとれるようになったが、保護者も子どもがプリントを渡さなくても、シグフィーで確認すれば良いという感覚が身に付いてしまい、学校でもらったものは必ず親に見せるという習慣がおろそかになっている。

引き続き、生徒には指導を継続する必要がある。

ウ C4thを使った情報の共有

(ア) 実践と成果

ペーパーレスと情報機器の活用の上達を図るため、C4thを利用しての職員同士の情報の共

有や個人連絡を推奨している。経費の削減にもなり、ICT 機器の使用を苦手としている職員も毎日使うことで、技術の向上につながると考える。

(イ) 課題

この取り組みは、主に経験豊富だが、ICT 機器の操作が苦手なベテラン職員に有効だと考えていた。しかし、職員自身に必要感が低い場合には、有効な活用とはならなかった。今後、職員全体の意識を高めながら、操作に慣れてもらえるような手立てを考えなくてはならない。

(1) 【沖水中学校の取組】

ア 地域との連携

(ア) 実践と成果

沖水中学校は、国道 10 号線の沿線東側に位置し、国道 221 号線や県道財部庄内安久線が交差している地域にある。朝夕の通勤時だけでなく非常に交通量が多い。また、都城志布志道路の全面開通を前に、大型トラック等工事車両の往来も多い状況にある。

本校では、生徒の交通事故、特に、登下校時の自転車運転に伴う事故が多い現状がある。対策の一つとして警察署の交通安全課の協力を得て、年度初めに交通安全教室を開き、道路交通法を理解した上での安全意識高揚を図っている。また、地域の“住みよいまち沖水”協議会に協力を依頼し、環境安全部会に所属する見守りボランティアによる活動、地区青少年育成協議会の定期巡回指導による事故防止を推進している。具体的な活動については、校内の各担当職員が計画を立てるが、教頭が“住みよいまち沖水”協議会の定例会に参加し、学校の実態と各活動のねらいの説明、及び依頼を行っている。協議会の定例会では、所属する各団体から、地域での生徒の様子に関する情報が寄せられるため、交通事故につながる小さな危険に関する生徒の様子を収集することができ、安全指導につなげている。

(イ) 課題

見守りや巡回指導の場面では、生徒の意識も高く、道路交通法を守り安全な運転心がけているようである。この面では一定の効果が見られるが、休日における自転車の乗り方については危険な場面に関する報告が多い。更に、自分の命を守るという意識を育てる必要がある。

イ 専門機関と連携した災害への対応や事故防止

(ア) 実践と成果

突然の災害や想定外の事故に対する安全管理は、日常からの点検と災害発生時の速やかな行動が決め手となる。そこで、年度初めに防災計画等を作成する際に、生徒の速やかな避難行動が確実にできるような視点で見直しを行い、校区内にある都城北消防署に避難を想定した設備の安全管理について指導をお願いした。教頭は、校内で改善できる面については職員とともに対策を講じ、施設設備面については教育総務と相談しながら対応した。また、毎月実施している安全点検に「転倒や転落の危険が予想される状況」と「生徒の速やかな避難が妨げられる要因」の視点で項目を加えた。

年間 2 回実施する避難訓練の際には、消防署員に職員の動きや生徒の動きが、防災計画に沿っているかを見ていただき、十分でない点を指導いただいた。初期消火の際に消火器の設置場所が把握できていない等の反省点が上げられた。

専門的な知識がある機関等と連携することでより高い安全管理を推進することができた。

(イ) 課題

毎年、危機管理マニュアルや防災計画を見直し改善策を講じているつもりであったが、計画を職員が十分に共通理解し、実際の行動に移せるかという点で、課題が見られた。更に、専門機関に協力いただき生徒が安心して生活できる学校にしていきたい。